

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例
-------	------------------------------

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

山形県東置賜郡高畠町

学校名

高畠町立高畠小学校

学校のURL

<http://www.omn.ne.jp/~takasho/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】1・2・4・5・6学年各3学級、3学年2学級
【特別支援学級】2学級、【合計】19学級

児童生徒数

【全校児童】475人（平成23年12月1日現在）
（内訳：1年生74人、2年生68人、3年生69人、4年生91人、5年生89人、6年生84人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「じょうぶな子ども」「心の美しい子ども」「考える子ども」「ねばり強い子ども」

【人権教育に関する目標】

「自他の命を大切にす児童の育成～豊かな関わりを通して～」

人権教育にかかる取組の全体概要

地域素材（自然・文化・人材）などの活用の仕方を探る。

- ・森林体験、農業体験を通して、いのちのつながりを知る。
- ・「広介学習」を通して、豊かな感性と「愛と善意の心」を育てる。
- ・自主、自立を育む児童会活動を推進し、「あいさつ運動」「ボランティア活動」を充実させる。

道徳の時間の指導のあり方を探る

- ・道徳の時間の年間指導計画を「いのちの教育」の視点や上記活動の関連から見直し重点化、焦点化を図る。
- ・道徳の時間の授業を校内研究に位置づけ、授業改善を進める。

3. 特色ある実践事例の内容

森林体験学習、農業体験学習を通して、いのちのつながりを知る取組み

(取組みのねらい、目的)

学校林での間伐作業や森林整備の活動、本格的な米作りの体験を通して、自然の大切さや命のつながりを体験的に学ばせる。また、農業や林業に携わる方との交流を通して、職業人としての誇りを知り、価値ある生き方について考えさせる。

(取組みの内容)

森林体験学習

7月、4年生が学校林の遊歩道のチップ敷き。11月、5年生が杉林の間伐体験、4年生がきのこの菌打ちを行なう。2月、5年生が間伐材を利用したベンチ作りを行なう。



農業体験学習

4月、3年生が堆肥まき。5月、5年生が田植え、1・2年生がさつま芋の苗植え。9月、6年生が稲刈り。10月、4年生が脱穀、1・2年生が芋掘り。11月、収穫祭(餅つき、会食)を行う。3年生から4年間を通して米作りの大きな作業を体験する。



「広介学習」を通して、愛と善意の心を育む取組み

(取組みのねらい、目的)

本町は、日本のアンデルセンと呼ばれる浜田広介の生れた町である。広介童話に親しませ、子ども達に豊かな感性と「愛と善意の心」を育てる。また、進んで読書をする子どもを育てる。

(取組みの内容)

図書室に「浜田広介コーナー」を設ける

子ども達が広介に対する関心を高め、本を手にする機会が増えるよう、図書室に「浜田広介コーナー」を設けた。楽しく温かな雰囲気での展示を工夫している。



最上一平氏の講演会・読み聞かせ



9月、ひろすけ童話賞受賞作家最上一平氏を招いて講演会を開いた。演題は、「今、子ども達に伝えたいこと」。子ども達に、本との出会い・読書の意味を語りかけた。

また、最上一平氏の、ひろすけ童話

賞受賞作品「じぶんの木」の読み聞かせを行なった。

特別読み聞かせ

11月、保護者で組織する読み聞かせボランティア団体「ひだまりおはなし会」による、「特別読み聞かせ」を行う。広介童話「たぬきのちょうちん」、ひろすけ童話賞受賞作家深山さくら氏の「かかしのじいさん」を、ピアノとバイオリンの伴奏、絵や人形で場面を表現しながら朗読した。



浜田広介の生き方に学ぶ

6年の総合的な学習の時間で、「輝いて生きる」をテーマにした調べ学習を行う。その中で「浜田広介の生き方」を調べるグループがあり、愛と善意にあふれる広介童話が生まれた背景を調べ、まとめたものを、12月、高畠地区「地区作り講座」で町民の方々に発表する。

道徳の時間の指導のあり方を探る取組み

(取組みのねらい、目的)

自他を大切にできる心を育てるには、道徳教育の充実、特に道徳の時間の充実が欠かせないと思われる。子ども達が本気になって考える授業、心を揺さぶる授業づくりを進める。

年度当初、「自他の尊重」に関わるものを重点として道徳の時間の年間指導計画を立てること、校内研究に道徳の時間の授業を位置づけることを確認する。

校内研修会の実施



7月、宮城教育大学教職大学院 相澤秀夫教授による示範授業と講話。

児童全員に本気で考えさせる道徳資料の活用の仕方、発問の仕方、子どもの考えの取り上げ方について研修する。

「希望の一本松」の授業

6年の道徳で「希望の一本松」の授業を行なう。東日本大震災で奇跡的に残った陸前高田市の一本松を題材に取り上げた。これをきっかけに、8月、町内の夏祭りで創作ダンス「サムライソーラン」を披露、募金活動を行ない、義援金を陸前高田の「高田松原を守る会」に送る。

(取組みの主体や実施体制)

人権教育研究推進委員会(校長・教頭・教務主任・研究主任・指導部長)で



立てた全体計画をもとに、各指導部長、研究主任、学年主任が中心となり取組みを進める。

(取組みを実施するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫)

- ・ 様々な活動や体験が、その場限りのものにならないようにすること。
活動や体験のねらいや意義、相互のつながりを常に意識して指導する。
活動や体験のふり返りを大切にし、その時の思いや考えを書かせ、記録する
- ・ 道徳の研究授業の成果を日常の授業に生かすこと。また、道徳の授業と諸活動との関連を強化すること。
学年会で、道徳の授業についての情報交換を行う。
授業について自由に話し合い、各学級でも活発な道徳の授業を展開する気運を高める。
諸活動においても、その意義を明確にし、道徳の授業の関連を図る。

4. 実践事例の実績、実施による効果

- ・ 子ども達に、優しさや思いやりのある言動が多く見られる。
- ・ あいさつが良くなっている。また、ボランティア活動、地域の行事に積極的に参加する児童が増えた。
- ・ 森林学習、農業学習では生き生きと活動し、自然と人間との関わり、自然の恵み命のつながりに気付く児童が多かった。
- ・ 読書の好きな児童が多い。特に、浜田広介の作品に興味を示す児童が増えた。
- ・ 道徳の授業が充実してきている。

5. 実践事例についての評価

- ・ 人権教育(自他の尊重)の視点から、活動のねらい、指導の重点、他の活動とのつながりを明確にした実践がなされ、所期の目標を達成することができた。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

高畠町立高畠小学校

地域素材（自然・文化・人材）を活用した協力的・参加的・体験的な学習や地域人材の教材化など人権教育を効果的に進めている事例である。

学校林での間伐作業や森林整備の活動体験,米作りの農業体験,さらに林業や農業に携わる人との交流など,豊かなかかわりとして価値ある生き方について考えさせることにより,児童の内面における人権課題への自覚を深めていることに特徴がある。

また,体験すること自体が目的でその場限りのものとならないように,ねらいや相互のつながりを常に意識し,振り返りを大切にするなど効果的な指導が展開されている。

地域が生んだ童話作家の生き方と作品の教材化は,児童にとって身近な存在で興味関心をもって学ぶことができ,豊かな感性と「愛と善意の心」を育て,自分自身を深く見つめ直すというねらいの達成に効果的である。